

1 得点分布及び小問ごとの正答率

〈表1〉得点分布

| 得点 | 人数 | |
|-------|-----|------|
| | 人数 | % |
| 100 | 0 | 0.0 |
| 90～99 | 8 | 1.2 |
| 80～89 | 47 | 7.2 |
| 70～79 | 83 | 12.8 |
| 60～69 | 93 | 14.3 |
| 50～59 | 124 | 19.1 |
| 40～49 | 129 | 19.8 |
| 30～39 | 104 | 16.0 |
| 20～29 | 49 | 7.5 |
| 10～19 | 13 | 2.0 |
| 1～9 | 0 | 0.0 |
| 0 | 0 | 0.0 |

*合格者の中から、無作為に抽出した650人(12.5%)の結果である。

*%の数値は、小数点第2位を四捨五入したものである。

〈表2〉小問別正答率

| 大問 | 小問 | 正答率 |
|----|--------|-----------|
| 1 | 1 | No.1 73.4 |
| | | No.2 98.8 |
| | | No.3 72.8 |
| | 2 | ア 20.6 |
| | | イ 72.3 |
| | | ウ 73.5 |
| | 3 | No.1 44.1 |
| | | No.2 39.7 |
| | | No.3 85.3 |
| | | No.4 85.0 |
| 小計 | | 66.0 |
| 2 | ① 63.5 | |
| | ② 61.4 | |
| | ③ 59.2 | |
| | ④ 70.5 | |
| | ⑤ 54.3 | |
| | ⑥ 56.5 | |
| 小計 | | 60.9 |

| 大問 | 小問 | 正答率 | |
|----|----|----------|------|
| 3 | 1 | エ 69.8 | |
| | | オ 87.2 | |
| | 2 | ① 67.4 | |
| | | ② 46.6 | |
| | | ③ 32.2 | |
| 小計 | | 56.0 | |
| 4 | 1 | (1) 86.8 | |
| | | (2) 88.3 | |
| | | (3) 28.7 | |
| | 2 | ① 58.7 | |
| | | ② 56.3 | |
| | | ③ 36.7 | |
| 小計 | | 55.9 | |
| 5 | 1 | (1) 56.2 | |
| | | (2) 67.7 | |
| | | (3) 66.3 | |
| | | (4) 58.9 | |
| | 2 | 37.3 | |
| | 3 | 63.8 | |
| | 4 | 34.3 | |
| | 5 | 13.5 | |
| | 6 | 1 | 30.9 |
| | | 2 | 18.3 |
| | | 3 | 4.8 |
| | | 4 | 1.7 |
| | 小計 | | 35.4 |

〈表3〉大問別の正答率の経年比較

| 大問 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 |
|---------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1 リスニング | 50.8 | 53.6 | 57.3 | 82.2 | 66.0 |
| 2 対話文読解 | 59.5 | 57.6 | 62.4 | 80.2 | 60.9 |
| 3 長文読解、表現力・文法 | 59.9 | 64.2 | 83.0 | 61.0 | 56.0 |
| 4 表現力 | 46.8 | 40.4 | 52.8 | 53.5 | 55.9 |
| 5 長文読解 | 45.8 | 37.8 | 37.6 | 56.0 | 35.4 |

2 分析結果の概要

〈表1〉について、20点台と30点台の得点層が、それぞれ7.5%、16.0%となっており、昨年度の3.8%と5.7%と比較して増加した。80点台から90点台の層はかなり減少し8.5%となっており（昨年度29.4%）、40点台から50点台の層が38.9%と増加した（昨年度26.8%）。

〈表2〉リスニングの1は昨年度と比較して66.0%とかなり下降した（昨年度82.2%）。「対話文読解」の2は、昨年度と比較して60.9%とかなり下降した（昨年度80.2%）。「表現力」を問う4の問題の正答率は55.9%と、この5年間で最も高い正答率になった（昨年度53.5%）。

〈表3〉について、「長文読解、表現力・文法」を問う3は、この5年間で最も低い正答率となった。

3 小問ごとの内容及びねらい

| 大問 | 小問 | 内容 | 出題のねらい | 出題形式 | | 評価の観点 | | | | | | |
|----|----------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------------------------|----------------------------------------------|-----------------|------------------|----------------|---------------|---------------|----------|---|---|
| | | | | 記号 選択 | 英語 による 記述 | 日本語 による 記述 | 関心 意欲 態度 | 表現 の能 力 | 理解 の能 力 | 知識 理解 | | |
| 1 | 1 | No.1 | 聞くこと | 身近な話題についての会話文を聞いて、その内容に合う絵を選ぶことができる。 | ○ | | | | ● | ● | | |
| | | No.2 | | | | | | | | | | |
| | | No.3 | | | | | | | | | | |
| | 2 | ア | | 短めの英文を聞いて、空所に聞き取った語句を正確に書くことができる。 | | ○ | | | | | ● | |
| | | イ | | | | | | | | | | |
| | | ウ | | | | | | | | | | |
| | 3 | No.1 No.2 No.3 No.4 | | 比較的長い文章を聞いて、本文の内容に対する質問に対して、適切なものを選ぶことができる。 | ○ | | | | | | ● | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| 2 | ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ | 読むこと | 会話文を読んで、その内容を理解し、英文を適切に並べかえて会話文を構成することができる。 | ○ | | | ● | | ● | ● | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 1 | 読むこと | 英文を読み、その内容に合う日本語を選んだり、英文を自然な流れになるように並びかえたりすることができる。 | ○ | | | ● | | ● | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | |
| 4 | 1 | (1) | 書くこと | 指示された語句を適切に並べかえて、飲み物を勧める英文を書くことができる。 | ○ | | | | | ● | | |
| | | (2) | | 指示された語句を適切に並べかえて、「～がある」という表現を含んだ英文を書くことができる。 | ○ | | | | | | ● | |
| | | (3) | | 指示された語句を適切に並べかえて、分詞を使った英文を書くことができる。 | ○ | | | | ● | | ● | |
| | 2 | ① | 書くこと | 興味のあることについて、自分の考えを英語で表現できる。 | ○ | | | ● | ● | | | |
| | | ② | | 初歩的な英語を用いて、自分の考えを英語で表現できる。 | ○ | | | ● | ● | | | |
| | | ③ | | 短い文章の中で、自分の考えを英語で表現できる。 | ○ | | | ● | ● | | | |
| 5 | 1 | (1) | 読むこと | 本文の内容に対する質問に対して、適切なものを選ぶことができる。 | ○ | | | | | ● | | |
| | | (2) | | 本文の内容に対する質問に対して、適切なものを選ぶことができる。 | ○ | | | | | ● | | |
| | | (3) | | 本文の内容に対する質問に対して、適切なものを選ぶことができる。 | ○ | | | | | ● | | |
| | | (4) | | 本文の内容に対する質問に対して、適切なものを選ぶことができる。 | ○ | | | | | ● | | |
| | 2 | 下線部分が指す内容を読み取り日本語で説明することができる。 | | | | ○ | | ● | ● | | | |
| | 3 | 下線部分が指す内容を読み取り適切なものを選ぶことができる。 | | ○ | | | | | | ● | | |
| | 4 | 本文の内容を理解し、2つの空所に共通して入る単語を適切に選ぶことができる。 | | ○ | | | | | | ● | ● | |
| | 5 | 下線部分が指す内容を読み取り日本語で説明することができる。 | | | | ○ | | ● | ● | | | |
| | 6 | 1 | | | | | ○ | | | ● | ● | ● |
| | | 2 | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | | | | | | |

4 標準解答及び考察

1 〈標準解答〉

| | | | | | | | | |
|---|------|-----------|------|-----|------|------|------|---|
| 1 | No.1 | エ | No.2 | ウ | No.3 | ア | | |
| 2 | ア | planning | | | | | | |
| | イ | Wednesday | | | | | | |
| | ウ | Could | ; | you | ; | come | | |
| 3 | No.1 | エ | No.2 | ウ | No.3 | イ | No.4 | ア |

〈ねらい〉

身近な話題についての英文を聞き、内容に合う絵を選んだり、聞き取った語句を書き取ったり、内容に関する質問の答えを選んだりすることを通して、具体的な内容や大切な部分を聞き取る能力をみる。

〈考察〉

- ・ 大問全体の正答率は、66.0%であった。昨年度と比べて下降したものの、概ねリスニングの力がついていると考えられる（昨年度82.2%）。
- ・ 1の対話「時間について」、「買い物について」、「写真の中の動物について」それぞれの内容にあてはまる適切な絵を選択する問題は、正答率の平均が81.7%で前年（73.4%）より高く、日常的な場面設定での短い対話文についての聞き取る力は定着しつつある。
- ・ 2の聞き取った語句を書き取る問題については、無解答はほとんどいなかった。アの正答率は、20.6%で、誤答として「planing」、「playing」、「play」が多くみられた。イの正答率は72.3%で、頭文字に小文字「w」を使った誤答が多く見られた。基本的な大文字・小文字の原則の定着に課題がみられる。ウは語と語の連結による音変化を聞き取る力をみる問題であるが、正答率が73.5%と高い（昨年度73.5%）。
- ・ 3の No.1と No.2は聞き取った内容をもとに、情報を組み合わせて答えを導き出す問題で、No.3、No.4の85%台と比較して、正答率は44.1%と39.7%と低い。

〈今後の指導〉

- ・ 具体的な内容や大切な部分を聞き取ることができるよう、聞き取りのための様々な場面や機会を設定して繰り返し演習を行う。
- ・ 日常生活にかかわる基本的な語彙や文法事項については、聞いたり話したりするだけでなく、書き取りまでできるように繰り返し指導し、習熟させる。
- ・ 大文字で書くべきところを、大文字か小文字か判別できないものも多かったため、つづりはもちろん、大文字・小文字の指導もさらに充実させる。
- ・ 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえながら聞き取ることができるよう、様々な状況を設定して慣れさせる。
- ・ 語と語の連結による音変化については、授業中にその聞き取りと読み方に注目させ指導する。特に、ALTとの授業において発音指導を意識的に行う。

2 〈標準解答〉

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ① | ウ | ② | ア | ③ | オ |
| ④ | イ | ⑤ | カ | ⑥ | エ |

〈ねらい〉

身近な話題についての会話文を読み、話の流れに合っている英文を選ぶことを通して、話の内容を理解し会話を構成する力をみる。

〈考察〉

- ・ 大問全体の正答率は、60.9%と昨年よりかなり低い（昨年度80.2%）。
- ・ 正答率は、④は70.5%と高いが、⑤のように空欄の前の文と、その後にくる文の流れを理解して選択する問題では、正答率は54.3%と下がる傾向にある。

〈今後の指導〉

- ・ 会話でよく使われる表現については、実際に使う場面を設定してペア活動などを通じて練習をさせる。
- ・ 文章を読む際には文脈に注意させ、特に、会話文においては話の流れを理解しながら

読む習慣を付けさせる。

- ・ 社会の変化に目を向け、特に時事問題については、日頃から適宜情報提供を行い、興味、関心の幅を広げる工夫をする。さらに、その話題について、調べ学習やスピーチなどを行い、自分の考えを表現できる機会を増やす。

3 〈標準解答〉

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | エ | オ | | | | | | |
| 2 | ① | ウ | ② | イ | ③ | ア | ④ | エ |

〈ねらい〉

英文を読み、内容に合うような日本語の文を選んだり、英文が自然な流れになるように段落を適切な順番に並べかえたりすることを通して、その内容（文脈）を読み取る能力をみる。

〈考察〉

- ・ 大問全体の正答率は、56.0%と昨年より低い（昨年度61.0%）。
- ・ 1の内容を読み取る問題の正答率は、エが69.8%で、誤答例としてはウが多かった。オは87.2%と高く、概ね内容の読み取りができています。
- ・ 2の英文を適切に並べかえる問題は、正答率の全体が44.8%と低く、短い英文の文脈を読み取る力はまだ不足していると思われる。

〈今後の指導〉

- ・ 授業では身近な話題を取り上げ、small talk や speech などを実践することで表現に習熟させる。
- ・ 内容を文脈から理解できるように、段落ごとに内容を要約させるなどの活動を通じて段落構成に慣れさせる。
- ・ 文と文をつなぐ接続詞や、論点で使用される副詞などを使って表現ができるように習熟させる。

4 〈標準解答〉

| | | |
|---|-----|----------------------------------------------------------------|
| 1 | (1) | What (would you like to drink)? |
| | (2) | There (is a bike shop over there). |
| | (3) | This (is the chair my father made) two years ago. |
| 2 | ① | I'm interested in ((例) English) |
| | ② | because ((例) I want to speak English well). |
| | ③ | (例) I feel so good and happy because our school becomes clean. |

〈ねらい〉

場面に応じて、指示された語句を並べかえて適切な英文を作ったり、与えられた情報をもとに、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書いたりすることを通して、表現する能力をみる。

〈考察〉

- ・ 大問全体の正答率は、55.9%と昨年よりやや高い（昨年度53.5%）。
- ・ 1の(1)は、86.8%の正答率である。さらに定着を図る必要がある。
- ・ 1の(2)は、88.3%の正答率である。誤答例として「is a over there bike shop」などがみられた。品詞による修飾関係の理解を深める必要がある。
- ・ 1の(3)は、28.7%の正答率である。誤答例として「This is the chair made my father.」などが多かった。特に接触節については、定着を図る工夫が必要である。
- ・ 2の①は、58.7%の正答率である。誤答例として「study English」、「play sports」など動名詞に変化させずに書いているものがみられた。また、学校生活に限定した条件にしたがって、自分の使える単語で表現することが困難であったと考えられる。
- ・ 2の②は、56.3%の正答率である。綴りの間違いが多く見られたが、無解答が少なく書こうとする意欲は感じられる。
- ・ 2の③は10語以上で書く表現力を問う問題であるが、無解答が少ないことから、一般的には与えられた条件にしたがって積極的に書こうとする意欲は感じられる。ただ

し、正答率が36.7%であることから、質問された内容を正しく理解し、読み手に正確に伝わるように書く力はまだ定着していないと思われる。

〈今後の指導〉

- ・ 日頃から英語を使って授業を進めることはもちろん、言語材料の基礎的・基本的事項については、繰り返しの指導によって定着を図る。
- ・ 具体的な場面や状況を設定して、考えや意見、その理由を含めて英語で書く練習をさせる。
- ・ まとまりのある文章を書く際に、自分の意向が読み手に対して正しく伝わるように、語と語のつながりなどに注意して正しく書く指導を行う。
- ・ 文型や文法事項を意識して、話したり・書いたりする練習を繰り返し行うことで、定着を図る。

5 **〈標準解答〉**

| | | | | | | | | |
|---|------------------------------------------------|-----------|-----|------|-----|-----|-----|--------|
| 1 | (1) | ア | (2) | イ | (3) | ウ | (4) | イ |
| 2 | (例) 山の水, 川の水, 海の水 | | | | | | | |
| 3 | エ | | | | | | | |
| 4 | エ | | | | | | | |
| 5 | 食べ物についてもっと理解し、見方を変え、人や環境や文化について考えてほしいということ。(例) | | | | | | | |
| 6 | 1 | (例) water | 2 | help | 3 | for | 4 | coming |

〈ねらい〉

比較的長い英語の文章を読み、内容に関する質問の答えを選んだり、英文の内容を日本語で説明したり、要約文を完成したりすることなどを通して、文章の概要や要点を読み取る能力をみる。

〈考察〉

- ・ 大問全体の正答率は、35.4%で、昨年度と比較してかなり下降した。(昨年度56.0%)。
- ・ 1全体の正答率は、62.3%である。特に、(1)が56.2%と低く、本文の内容と選択肢の内容を正確にとらえられなかったと考えられる。
- ・ 2の正答率は、37.3%と低い。「山と川がつながっている。」「山や川や海は1つである」などの誤答が多かった。指示代名詞が指す内容を理解しながら読むことに課題がみられる。
- ・ 3の正答率は、63.8%である。下線部の指す内容は、前の段落にあったため、指示内容を正確に判断できなかったと考えられる。
- ・ 4の正答率は、34.3%と低い。英文を読んだり、表現したりする際に手がかりとなる表現についての理解が不足していると考えられる。
- ・ 5の正答率は、13.5%とかなり低い。下線部の指す内容を45字以内の日本語で答える問題であるが、前の段落を正確に読み取れば解答できる問題であることから、文脈をとる力や、内容をまとめて表現する力が不足していると考えられる。
- ・ 6全体の正答率は、10%台とかなり低く、特に、3と4の正答率が低かった(それぞれ4.8%、1.7%)。全文の内容を正確に理解し、要約する力が不足しているのと同時に、英文の内容は変えずに別の表現で書き換える力が不足していると考えられる。

〈今後の指導〉

- ・ 限られた時間の中ですばやく英文に目を通したり、意識的に特定の情報を探しながら精読させたりするなど、目的に合ったさまざまな読み方をさせる。
- ・ 段落ごとの概要を読み取る、本文中の表現について具体的に日本語で説明する、ある表現に込められた登場人物の心情を読み取るなど、授業の中で適切に指導をする。
- ・ 英文全体の段落構成や、段落ごとのつながり、さらには文と文のつながりなどを意識させて読ませる工夫をする。
- ・ 語彙力・文法力の習得を確実にしながら、段落ごとの要約を書かせたり、英文全体を簡単な英語でまとめさせたりするなどの指導を工夫する。